

## 達成状況評価書(平成24年度)

部局名:産業科学研究所

項目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	<p><b>【年度計画の達成状況】</b> 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p><b>【特記事項】</b> 平成24年度は、(独)日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に採択され、学生・若手研究者の長期海外インターンシップを実施し、また部局経費によりRA経費を倍増し、84%の博士後期課程の学生に対して経済的支援を行うなど適切に実施している。</p> <p><b>【留意事項】</b> 特になし。</p>
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	<p><b>【年度計画の達成状況】</b> 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p><b>【特記事項】</b> 平成24年度は、日本学士院賞の受賞、また、トポロジカル超伝導体候補物質を発見した研究成果が優れた学術誌(Physical Review Letters)誌に掲載され、Science誌のEditor's Choiceで紹介されたほか、イタリア応用オントロジー研究所、パリ南大学などとの国際共同研究の実施、特任教授を室長とする企画室の設置による所内横断的な外部資金獲得の支援、共同利用・共同研究拠点(5附置研担当分)への申請に関するホームページの整備など、積極的に取り組んでおり、大学の年度計画の達成に貢献している。</p> <p><b>【留意事項】</b> 特になし。</p>
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	<p><b>【年度計画の達成状況】</b> 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p><b>【特記事項】</b> 平成24年度は、産学連携体制を強化した結果、産学連携での共同研究として66件で約2.06億円、受託研究として39件で約7.75億円を得るとともに、特許権等の譲渡費として23件で約9,500万円、特許権等実施費として6件で787万円を得、新規のベンチャー企業2社を立ち上げ、また、(独)日本学術振興会の研究拠点形成事業、二国間交流事業に採択され、国際ネットワークの強化を推進するなど、積極的に取り組んでいる。</p> <p><b>【留意事項】</b> 特になし。</p>
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	<p><b>【年度計画の達成状況】</b> 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p><b>【特記事項】</b> 平成24年度は、評価、広報、国際、財務、及び施設に係る企画業務補佐の実施のため、企画室に特任教員(教授)を採用し支援機能を強化するとともに、事務職員、技術職員のスキルアップを支援するため、「産研人材育成プログラム」をスタートさせ、まず、英語力強化のため、SANKEN English Caféを6回開催し、延べ65名が参加するなど、積極的に取り組んでいる。</p> <p><b>【留意事項】</b> 特になし。</p>
5. 全体の項目に関する達成状況		<p><b>【中期計画の達成状況】</b> 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。</p> <p><b>【特記事項】</b> 平成24年度は、ネットワーク型の大型設備活用型および共同研究型の共同利用・共同研究拠点の活動として、北海道大学、東北大学、東京工業大学、九州大学を加えた5つの附置研究所による「物質・デバイス領域共同研究拠点」を形成し、共同利用・共同研究課題の採択件数437件、共同利用・共同研究の受入機関数371機関(のべ3,952人)、研究会・シンポジウム国内21件・国外1件を実施した。附置研究所間アライアンスプロジェクトをとして、アライアンス連携研究を推進したほか、新たに2件の国際連携研究ラボを設置するなど積極的に取り組んでいる。</p> <p><b>【留意事項】</b> 特になし。</p>